

## 述而第七

子曰、仁遠乎哉。  
我欲仁、斯仁至矣。

し い じん とお  
子曰わく、仁は遠からんや。  
われじん ほつ ここ じんいた  
我仁を欲すれば、斯に仁至る。

(7-179)

<子曰わく、仁は遠からんや>

Q：「子曰わく、仁は遠からんや」とは何ですか。

A：(1)「孔子が言った。仁(人間愛)の道は、我々の手のとどかない、遠いところにあるものではない」の意。

(2)「仁は人から遠く離れたものであろうか。人から遠いものではない」の意。

(3)仁道は遠くはない。仁は人心なりで、人の本性の働きである。

<我仁を欲すれば、斯に仁至る>

Q：「我仁を欲すれば、斯に仁至る」とは何ですか。

A：(1)「自分が仁の道を求めさえすれば、すぐに仁の道は来るものだ(要は心の持ち方次第だ。)」の意。

(2)「われわれが仁でありたいと思えば、その瞬間、直ちに仁はやってくるものだ」の意。

(3)仏教では「即心是仏」といい「悉く仏性有り」といった。「神は汝らのうちに在り」とキリストが説いたのも同じだ。人間の心の徳以外に、仏も神も仁もない。この大切な心を人は粗末にしてはならない。